様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：２４３０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2016～2017
課題番号：１６Ｈ０７１２０

研究課題名（和文）人形浄瑠璃文楽の近世後期上演記録データベース更新に係る追補的資料研究

研究課題名（英文）Additional research on materials of Ningyo Joruri Bunraku related to updating the databases of performance records in the late Edo period

研究代表者
神津　武男（KOZU, TAKEO）

京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・客員研究員

研究者番号：１０４２４８２１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：江戸時代・近世期の「人形浄瑠璃文楽」（ 義太夫節成立以後の人形芝居）の、 真に科学的な通史の完成を目指して、資料整備を進めている。 筆者は「浄瑠璃本」（通し本。演劇台本・脚本に相当）、「番付」（ポスター・チラシに相当）の二種の史料について、 日本国内および海外で悉皆調査を展開してきた。 近年新たに所在を把握した未調査機関を追加的に実地踏査して、「 浄瑠璃本」「番付」各データベースの充実と精度の向上を目指す。

研究成果の概要（英文）：This study aims to complete the truly scientific history of the "Ningyo Joruri Bunraku" (puppet plays after the establishment of Gidayu-bushi) in the Edo period. I have continued to investigate "joruri books" and "joruri programs" in Japan and some foreign countries.I will make the further investigation in some organizations where I newly grasped the possession of materials to enhance the quality of "joruri books" and "joruri programs" databases.

研究分野：日本文学

キーワード：浄瑠璃本　人形浄瑠璃文楽　日本古典文学　出板（出版）　日本近世演劇　書誌学　データベース　上演記録

１．研究開始当初の背景
江戸時代・近世期の「人形浄瑠璃文楽」（義太夫節成立以後の人形芝居）の上演記録は、『義太夫年表　近世篇』（八木書店、1979－1990 年）の成果を最新とする。しかしその完結から 20 年余を経て、少なくとも四次の補正更新情報が別々に報告されている点が、利用上の障壁となりつつあった。
興行記録という最も基本的な情報（とその検索手段）における混乱状況を解消することは、当該研究分野の深化に有用と考えられるばかりでなく、日本近世文学をはじめとする近接諸分野への情報提供の関連からしても、早期に実現されるべき課題と考えた。
筆者は以前、基盤研究(B)「人形浄瑠璃文楽の近世期上演記録データベースの作成と活用・公開に関する基礎的研究」（研究課題番号 22320054。2010-2013 年度）の研究代表者を務め、上記の課題に取り組んで、上演記録のデータベース化に着手している。
また従来の人形浄瑠璃史は、上記のように番付に基づいて構想されたが、番付は興行を予告したものであるため、基本的に興行開始後・上演中の改変などを反映するところは少ない。浄瑠璃本は興行開始後（およそ五十日後）に刊行されることから、事後の時点で当該興行を総括する性格を有する。浄瑠璃本の諸本研究を進めることによって、事前（番付）、事後（浄瑠璃本）の双方の資料に基づいて、浄瑠璃史を構想することができるようになる。
筆者は以前、若手研究(B)「浄瑠璃本による近世後期人形浄瑠璃史の研究」（研究課題番号 18720049。2006－2007 年度）の採択を得るなどして、日本国内外での浄瑠璃本の所在調査・書誌研究を進めている。

２．研究の目的
全体構想は、我が国が世界に誇る伝統演劇「人形浄瑠璃文楽（にんぎょうじょうるりぶんらく）」の、伝統の実体を解明し、真に科学的な通史を完成させ、以て当該演劇およびその研究の一層の隆盛を大目標とするものである。
本研究課題はその基礎となるべく、専門家（人形浄瑠璃文楽の演技者や劇場関係者）や日本文学研究者への学術的貢献はもとより、当該演劇に関心をもつ日本国民一般ひいては外国人研究者等へ対して、正確で信頼のおける興行・上演記録へのアクセスを可能にすることを通じて、大方の関心と叡智とを当該分野へ集めることを所期の目的とするものである。

３．研究の方法
人形浄瑠璃文楽研究の進展には、通説の孫引きでなく、原資料に基づき直すことが必要だと考える。そのためには研究者は勿論、人形浄瑠璃文楽に関心を寄せる者すべてが必要な資料にアクセスできる環境を整備することが重要である。この認識に立って、筆者は、
・浄瑠璃本（通し本。こんにちの演劇の台本・脚本に相当するもの）、
・番付（こんにちの演劇のポスター・チラシに相当するもの）、
の二種の史料について、日本国内および海外で所在調査・書誌研究を展開してきた。それぞれについて「浄瑠璃本」書誌データベース、「人形浄瑠璃番付」書誌データベースを作成して、情報を管理している。
近年に至り新たに所在が知られた所蔵機関があったので、実地に資料調査を追補的に行ない、これまでに蓄積した書誌情報との校合を進めて、人形浄瑠璃文楽の資料学的研究をより精緻な段階へと深化させることを目指した。
このため本研究課題では、両年度にわたって、次の事業を行なった。
Ｉ．浄瑠璃本（通し本）を所蔵する未調査機関での資料調査
II．番付を所蔵する未調査機関での資料調査
以下、事業ごとに訪問した機関名・資料数を以て、調査の概要を示したい。ここに資料の閲覧調査を許された所蔵機関・所蔵者の皆様へ感謝申し上げたい。
Ｉでは次の 7 機関 1 個人を実地に訪ね、909 冊について新規の書誌調査を行なった（機関名のあとの数字は冊数）。
・ホノルル美術館 5
・北上市立中央図書館 3
・福島県立博物館 1
・白百合女子大学図書館（鶴見誠氏旧蔵）211
・東京家政学院大学附属図書館 1
・東洋大学附属図書館 6
・人形劇の図書館 160
・西村公一氏 527
なお調査の旅程ではほかに、抜き本のみを所蔵する機関や、調査済みの機関であってかつ再調査の必要があって訪問した機関もあるが、これについては割愛する。
IIでは次の 2 機関 2 個人を実地に訪ね、1088 枚について新規の書誌調査を行なった（機関名のあとの数字は枚数）。
・国立音楽大学図書館竹内文庫 189
・安田文吉 7
・宝珠院 21
・文楽協会 871
なお調査では近代に行われた興行の番付も同時に閲覧しているが、これについては割愛する。
また関連する史料として人形浄瑠璃関係者の墓碑についても調査した。両年に調査した寺院名は次の通り（訪問順）。
・宝樹寺（東大阪市。紀海音）
・長命寺（近江八幡市。竹本三根太夫）
・法善寺（京都市。7 代竹本綱太夫）
・木母寺（墨田区。3 代竹本倉太夫供養塔）
・竹林寺（大阪市。初代竹本磯太夫）
・専定寺（京都市。3 代竹本綱太夫）

・真如堂（京都市。2 代竹本綱太夫）
・本伝寺（大阪市。豊竹筑前少掾）
・四天王寺（大阪市。豊竹筑前少掾ほか）
・清風寺寝屋川霊園（寝屋川市。10 代豊竹若太夫ほか）
・一心寺（大阪市。竹本山城掾）
・寿法寺（大阪市。鶴沢勝次郎）
・吉祥寺（大阪市。5 代野沢吉兵衛ほか）
・泰聖寺（大阪市。初代竹沢浜右衛門ほか）
・宗恵院（大阪市。野沢吉松）
・大長寺（大阪市。2 代豊竹麓太夫ほか）
・満願寺（京都市。5 代野沢庄次郎）
・大乗寺（大阪市。6 代野沢喜八郎）

昭和後期まで存在した近世期の石碑が、平成期に進む墓地の〈再整理〉で失われたと知られる場合もあって、墓碑・碑文の記録は急務である、と指摘したい。過去帳でなく、墓碑そのものの記録が必要であるのは、主に台座に刻まれるところの人名の有無が重要であるからで、葬られる当人が建立当時いかなるネットワークの中に生きたのかがここからのみ判明するからである。

境内地の再整備を理由として撤去する例（泰聖寺・大乗寺）や、また後継者の判断によって改装された例（法善寺・専定寺）もあった。貴重な情報が記録されずに失われたことは残念であった。

４．研究成果

Ⅰ．浄瑠璃本（通し本）を所蔵する未調査機関での資料調査の成果としては、「浄瑠璃本」書誌データベースに新規に調査し得た 909 行のほかに関係書も含めて、結果 29378 行を数えるに至った。

従来知られていなかった新出本は、西村公一氏の蔵書中に道行揃のいくつかを数えるが、個々の書名は後日目録化を遂げて、まとめて紹介したいと考える。また書名・作品そのものは既に知られていたものであるが、板種としては知られていなかったものとして、白百合女子大学図書館に『根元曽我』十行本の新出板があった（ただし旧蔵者によると思われる改装の際に丁の前後を誤った、乱丁を生じている）。

Ⅱ．番付を所蔵する未調査機関での資料調査の成果としては、」人形浄瑠璃番付」書誌データベースに新規に調査し得た 1088 行のほかに近代の分も含めて、結果 15392 枚を数えるに至った。

本研究課題調査分では近世期 64 枚の新出があって、19 興行の存在を新たに把握したほか、異板に関する情報（既知の資料の原板もしくは改修板である）を収集することができた。

また墓碑に関する調査について、代表的な二例を挙げて報告したい。第一に、墨田区・木母寺の「浄瑠璃塚」に、式亭三馬(推定)の揮毫による碑文があった。石碑の下方は土に埋もれていること、および碑文に剝落が生じているため全文を判読することはできないが、碑文には 2 代竹本紋太夫が「癸丑十二月[欠]尾州名古屋[土中]」に没したことが知られた。国会図書館『夢跡集　浄るり之部』に記すところの、2 代紋太夫の墓碑は失われたと思われるので、同書の記述とあわせて「浄瑠璃塚」は 2 代紋太夫が寛政 5 年（1793）「癸丑」の 12 月 3 日に名古屋で死去したことを伝える唯一の同時代資料であるといえる。

第二に、近江八幡市・長命寺の例。筆者はインターネットのＳＮＳ「ツイッター」上に、近世期の太夫を中心として、祥月命日にその略歴を述べるのであるが、2016 年 11 月中旬「滋賀県近江八幡市の長命寺参道に「竹本三根太夫」の石碑がある」旨を、ツイッターのダイレクトメールとしてお知らせくださる方があった。添付の写真は正面の一枚のみで、文字は「俗名竹本三根太夫」と読めたが他面の情報は無かったので、同年 12 月 14 日訪問して実見した。裏面に「天保十年己亥冬」、左面に「釈浄峯」とあった。これは『増補浄瑠璃大系図』に天保 10 年（1839）5 月大坂での出演を最後として「少し病気にて加賀国山中え入湯に行」「右入湯が当りて大阪に立帰り養生不叶」に没したとのみ伝わる、5 代三根太夫の戒名・没年であろうと考える。従来所在すら知られなかった墓碑のいわば研究史上への新出が、こうした形でもたらされたことはインターネット社会ならではの奇縁、と感慨深く、合掌した。お知らせくださいました園田りか氏へここに感謝申し上げます。

なお上演記録の補完史料と位置付け得る、江戸板六行本「大字遊下本」シリーズについて、本研究課題において再調査を行なうなどして、論文①「江戸板六行本「大字遊下本」の効用―義太夫節・人形浄瑠璃文楽の現行本文の成立時期を辿る手掛かりとして―」に諸本の所在などをまとめた。「大字遊下本」は、江戸で刊行された抜き本であるが、当時の上演本文を反映する点に特徴を示す（大坂板五行本は、基本的に通し本・初演本文を抜き書きしたもので、上演現場での改変を個々に捕捉しない）。「大字遊下本」が前表紙に掲げる太夫・三味線の配役情報は、すなわち番付に準じる上演記録そのものであって、諸本の整理の結果として、江戸で行われた 36 興行の存在を新たに考証することができた。

また本研究課題の成果報告のひとつとして、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターにおいて、「京都と人形浄瑠璃」展を開催した（2017 年 12 月 14 日―2018 年 4 月 16 日）。京都を拠点として活動したひとびと(太夫では 3 代竹本綱太夫、三味線では野沢姓の人々)の存在を取り上げて、現在の人形浄瑠璃文楽へも今に影響を遺す、義太夫節伝承における京都の系脈の存在を指摘した。

展示では本研究課題の調査で新たに確認された抜き本
・豊竹呂勢太夫氏『時雨の炬燵』「紙屋」、
・西村公一氏『関取千両幟』「猪名川内」、
・人形劇の図書館『本朝廿四孝』「勘助住家」、
を、3 代綱太夫による添削本文でこんにちに

伝承される作品であることを紹介した。当該３作品については本研究課題採択期間中に、それぞれ個別に論文として発表した（『時雨の炬燵』は論文④、『関取千両幟』は論文②、『本朝廿四孝』は論文①）。
当該展示では、「京都板元所在地図」として、現在の京都市街図の上に、かつて京都で活動した浄瑠璃本の板元・本屋の所在地（移転の場合は複数）を図示して、各自の刊行本の現物を並べた。これはⅠ．浄瑠璃本（通し本）を所蔵する未調査機関での資料調査の成果を反映するものである。
また「京都墓碑所在地図」として、やはり現在の京都市街図の上に、京都を拠点として活動した竹本綱太夫の代々と、野沢派のひとびとの墓碑・供養塔の所在地を図示した。これは付随的に行なった墓碑調査の成果を反映したものである。
なお本展示では、3 代竹本綱太夫の肖像画（原寸デジタル画像）を掲出することができた。当該肖像画は、女流義太夫の 4 代竹本綱吉師の旧蔵になるもので、先年同人の HP 上に小さな画像として紹介されていたものだった。今回の調査で実見をお許しいただき、結果として、元は扇面に描かれたものを横長の長方形に切り詰め、軸装したもの（切り詰めた際に、署名と落款を切り抜いて移動・貼付した）が現在の姿である、と知られた。
経年の劣化にって掛軸の台紙に裂傷を乗じていたため、現物自体を展示することは諦めざるを得なかったが、3 代綱太夫の肖像画を展示という形で初めて紹介することが出来たのは嬉しかった。4 代綱吉師御遺族（中村紀代子様、向坂佳子様、向坂眞理子様）の御理解御協力によることを記して、感謝申し上げます。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　5　件）
① 神津武男：“江戸板六行本「大字遊下本」の効用―義太夫節・人形浄瑠璃文楽の現行本文の成立時期を辿る手掛かりとして―”早稲田大学高等研究所紀要 10.1-60（2018）、査読無
https://www.waseda.jp/inst/wias/assets/uploads/2018/03/RB010_230-171-1-60.pdf
② 神津武男：“『関取千両幟』「猪名川内」現行本文の成立時期について―本文と「櫓太鼓」「曲引」演出の三次の改訂とその時期―”歴史の里 21.21-36（2018）、査読無
③ 神津武男：“近世近代の人形浄瑠璃の全国流行について―中央の発信と、地域化する過程―”地方史研究 389.32-35（2017）、査読無
④ 神津武男：“『時雨の炬燵』成立考―三代竹本綱太夫の添削活動について―”早稲田大学高等研究所紀要 9.1-42（2017）、査読無
https://www.waseda.jp/inst/wias/assets/uploads/2017/03/RB009-121-162.pdf
⑤ 神津武男：“『摂州合邦辻』下の巻の切「合邦内」現行本文の成立時期について―二代竹本綱太夫の添削活動について―”歴史の里 20.20-44（2017）、査読無

〔学会発表〕（計　0　件）

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

○取得状況（計　0　件）

〔その他〕
新聞報道
2018 年 1 月 26 日・京都新聞「人形浄瑠璃　京は聖地だった」「市立芸大　三世綱太夫らに光当て企画展」

ホームページ等
神津武男「近松没後義太夫節人形浄瑠璃初演作品データベース」
http://archive.waseda.jp/archive/subDB-top.html?arg={"item_per_page":20,"sortby":["1522a","ASC"],"view":"display-simple","subDB_id":"75"}&lang=jp

６．研究組織
(1)研究代表者
神津　武男（KOZU,Takeo）
京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・客員研究員
研究者番号：１０４２４８２１